



円熟ではなく「角熟」したいと語る佐藤社長

介護サービス事業を手掛けるウエルビィーイング（高崎市井野町376、佐藤健司社長）が、今年9月で設立15周年を迎えた。佐藤社長は設立前まで福祉とは無縁の営業職に就いていた。だが、分野として「ごみ」「子供」「高齢者」を意

識していたという。そんな時、実父が認知症になつたことを契機に、介護サービス事業をスタートした。

027-386-8700が、今年9月で00年に始まつた介護保険法に関しても知らないため、一から勉強。ただ、業界経験のないことが結果的に幸いした。「外から入つたので、福祉業界では当たり前と思われる

027-386-8700が、今年9月で00年に始まつた介護保険法に関しても知らないため、一から勉強。ただ、業界経験のないことが結果的に幸いした。「外から入つたので、福祉業界では当たり前と思われる

027-386-8700が、今年9月で00年に始まつた介護保険法に関しても知らないため、一から勉強。ただ、業界経験のないことが結果的に幸いした。「外から入つたので、福祉業界では当たり前と思われる

ウエルビィーイング 設立15周年

五不五感の実践で信頼を 「人間の強さを現場で実感」

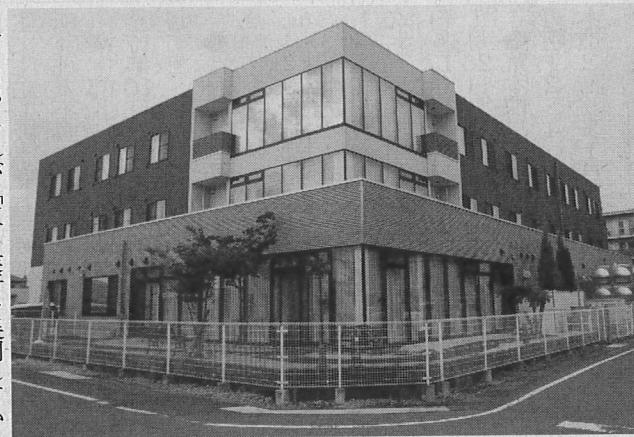
く、皆で仕事のハードルを下げているようにしか映らなかつた。そこで、福祉の仕事にも目的意識を持たせよう

訪問介護合わせて9事

（山田誠二）

と考へた。それが「五不感」だ。五不とは、不満・不信・不安・不便・足・不快のこと。これを全て逆にして利用者に提供しようと考へた。不便を便利に、不快を快適に。この考へを実践し、社員の質と気付きの感度を上げていった結果、施設稼働率は90%以上となつた。今では123床の入居施設とデイサービス・

添いたいとし、最後に「自分は人間に円満ではなく、角熟していきたい」と語つた。



高崎市井野町にある施設外観

業所を開設している。

佐藤社長は「この仕

事を通じて、いろんな

意味で人間の強さが実

感できた。強さの中に

は尊さ・優しさ・怒り

などたくさんの思いが詰まつていて話す。

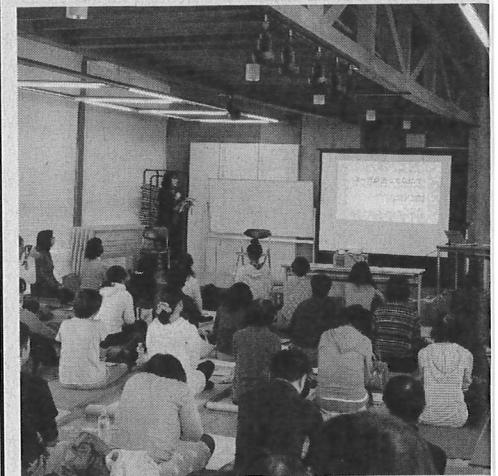
また、「医療」が生き

ている場とするなら、

「介護」は生きて行く

場だと述べ、言葉ではなく肌感覚で人に寄り

西洋・東洋



カンファレンス会場の様子

県立県民健康科学大学は10月28日、第2回公開講座「認知症になつても」は、厚生労働省の認知症施策である「新オレンジプラン」の一環として同大学で開発され、福祉関係者ら約130人が参加した。

福祉関係者13

認知症研修教材

今回の講座は、厚生労働省の認知症施策である「新オレンジプラン」の一環として同大学で開発された「認知症サポート」！ 130人が参加した。